

平成25年度 第1回 常呂まちづくり協議会 会議要旨

◎日 時	平成25年4月25日(木)午後6時00分～
◎場 所	常呂総合支所 2F 第1会議室
◎出席者	協議会：9名 山内委員長、田淵副会長、嵐委員、安藤委員、稲田委員、澤向委員、敦賀委員、寺町委員、横山委員、
◎北見市	辻自治区長、山田総合支所長、竜滝主幹、土島市民環境課長、表保健福祉課長、山崎産業課長、本所建設課長、戸田教育事務所長、松本給食センター所長、事務局：須藤総務課長、川村地域振興担当係長、赤塚地域振興担当

開 会

山田支所長 : ただいまから、平成25年度 第1回常呂まちづくり協議会を開催いたします。

はじめに4月1日付けをもちまして、新しく自治区長が配置されましたので、辻常呂自治区長よりご挨拶申し上げます。

・・・自治区長 挨拶・・・

山田支所長 : 続きまして、4月1日付けで、職員の異動がありましたので、それぞれ関係職員より自己紹介をいたします。

- 山田 総合支所長
- 戸田 教育事務所長
- 須藤 総務課長
- 土島 市民環境課長
- 表 保健福祉課長
- 山崎 産業課長
- 本所 建設課長
- 松本 常呂学校給食センター所長

山田支所長 : それでは、山内会長よろしく願いいたします。

会長 挨拶

山内副会長 : ・・・挨拶・・・

会議 成立 : 委員15名中 9名出席 (自治区設置条例第7条第3項)

報告

(1) 平成24年度 まちづくりパワー支援補助金の事業報告について
山内 会長 : 平成24年度まちづくりパワー支援補助金の事業報告について、それぞれの実施団体より報告をいただきたいと思います。

①常呂森林公園に桜を植えよう事業
【ところ街づくり実行委員会】

伊藤実行委員 : ーパワーポイントにより資料を提示して報告ー
ところ街づくり実行委員会は、商店主が6名集まって各事業をおこないました。

平成20年度・21年度は、「空き店舗のシャッターペイント事業」ということで2年間で15店舗のペイント事業を行いました。今でも常呂町の産業に関するペイントが見えると思います。また、平成22年度から24年度までは「常呂森林公園に桜を植えよう事業」といことで合計130本の桜を植えました。24年度は子供達も参加をして、将来、桜の下で地域住民が集い桜の名所となるように植樹をしました。終了後はバーベキューハウスで桜談議を開きまして事業に対するアドバイスを頂いたりしました。費用につきましては、参加費500円と寄付をいただいて実施しました。

この3年間で150の方に参加していただき充実した事業になったと思います。

以上、「平成24年度常呂森林公園に桜を植えよう」事業の報告と致します。

意見・質問

委員 一同 : ー意見・質問等なしー

②「写真が映し出す家族の思い出、地域の歩み」事業
【ところ笑顔・語らいプロジェクト】

國枝代表 : ーパワーポイントにより資料を提示して報告ー

この事業は家族の写真をとおして地域の中で多くの人に関わり集うことが、まちづくりと考えて企画したものです。

この事業は写真展を開き、その写真展の会場を訪れる人達と語らいを重ねることを重視したものです。11回の例会を重ね多くの人に喜んでいただくには、

どういふプランが良いかなど話し合ってきました。私達の実行委員会は、若い世代と年配の世代の者が一緒になって、例会のたびに昔の写真が集まると、常呂の思い出話を若い世代の会員に話し、例会が地域の移り変わりを伝え合う機会となっていました。また、例会の中からお茶や昔なつかしい団子を提供するアイデアなどが生まれました。会場に来てくださる方々が写真を前にしていろいろな人達と出会える、語らう潤滑油として考え、昔なつかしい写真を見ながら思い出を楽しんでいただく小道具として考えました。当日は団子を食べながら語り合う姿がたくさん見られました。来場された方々の感想にも、「ふらっと立ち寄って自由に語り合える場があるといい。」という声も聞かれました。また、写真が日常的なもので、担っていく過程でカメラの果たした役割の大きいことが例会の中で出て、カメラ好きの仲間が中心となって戦前・戦後を通じて著名なカメラを展示しました。これも写真展を豊かにするアイデアの一つだと思っています。今回、口コミで150枚を超える写真が集まりました。様々な時代や生活の背景の異なる写真を展示し、その一枚ずつに提供された人達のコメントを付けました。写真をご覧になった方々は皆、熱心に読み会場で会った方々と写真について自分達の思い出を語り合う姿が多数見られ、実行委員としては、やって良かったと思っております。また、写真展を終えて写真を提供していただいた方々に、展示写真フレームをプレゼントいたしましたが、元の写真よりも大きく、修正を施しているので感激の言葉をたくさんいただきました。私達は大切な写真を多くの人に見てもらい、なお且つ、感謝の言葉をもらえたことにうれしさを感じています。ささやかなことですが事業を企画して、その思いが実現できたことの充実感を覚えております。

最後にこの事業を実施するにあたって、まちづくりパワー支援の助成を受けられたことを心から感謝をして報告を終わります。

意見・質問

委員 一同

： 一意見・質問等なし

③「トコ×たペプロジェクト」事業

【ところ おいしいシアワセ見つけ！隊】

佐野事務局長

： 一パワーポイントにより資料を提示して報告一

この事業は常呂の食材を使った新しい料理や昔から受け継がれてきた家庭の味のデータ化を図り、常呂に暮らす人達が地元の食への理解を深めると共に常呂の豊かさを広く伝えることを目的といたしています。実施時期、事業内容としては料理の募集を10月から募集しました。チラシを2回折り込んでメンバーの募集とレシピの募集をしています。応募件数は38件でしたが、徐々に増えています。10月から3月の間に、その都度料理の作成し、写真を撮影してまとめています。レシピの交流会の開催といたしまして3月29

日に多目的研修センターで料理の作成・展示・試食（10品）をおこなっています。その中で野菜ソムリエの小林清美さんの講演を開いております。小林さんにつきましては常呂とご縁がありまして、以前、農業改良普及所で常呂を担当していたということでその繋がりをお願いしていました。野菜ソムリエの小林清美さんの料理の講習としてスープ2品をお願いしています。参加者は36名です。この事業の効果といたしましては、あらためて常呂の「食」の豊かさ、食材の素晴らしさに気づき、さらに積極的に取り入れようとする動きが見られました。また、レシピ交流会では、世代や職種を超えて、「食」について語り合うことができました。地元食材の力と、農・漁業生産者の想いを伝える機会を作ることは、常呂だからこそできる、「生きた学びの場」であると感じました。レシピ募集により、家庭の味や昔から受け継がれている味、意外な組み合わせの味などの発掘ができました。今後はレシピに常呂の四季を折り込んだ形にしていきたいと計画をしております。

以上です。

意見・質問

横山 委員 : いろいろな食品の試食をやっているようですが、これを発展させて観光地で売るような計画はあるのですか。

寺町 委員 : レシピ本を完成させたあとに活用して、いろんなところに展開していきたいなと思っていますが、今のところそういう具体的な話までは出ていません。

横山 委員 : 常呂は観光地であって食材もあるので、是非、観光客に売れるようなものを考えていただければと思います。

山内 会長 : 飯寿司のピザ？想像つかないのですが説明してください。

那須 代表 : ある高齢の方から常呂は非常に海産物が豊かなので「飯寿司」もレシピに載せてはどうかということで「飯寿司」のレシピをいただきました。家にお伺いをして「飯寿司」のことを聞かせていただいた中で、「実は飯寿司をピザにするとおいしいんだよ。」と教えていただいて、飯寿司もチーズも発酵食品なので間違いなく相性がいいのではと考えまして、その方が作られたピザは食べていないのですが、私達なりのアレンジを加えたりしてピザを仕上げました。当日、試食交流会にお見えになったご当人からは非常においしいとお褒めをいただきました。

いろんなところから意外な味が出てくるので、常呂の食材を多方面から眺めながら、みんなで作りながらということで面白くなっていくのかなと思って私達も期待しているところです。

議題

(1) 平成25年度まちづくりパワー支援補助金の公開審査について

山内 会長 : それでは、平成25年度まちづくりパワー支援補助金の公開審査を行います。

す。

本審査は、公開のヒアリング審査となります。審査に入る前に、事務局から応募状況や審査の手順について説明を受けたあと、審査に入りたいと思います。

それでは事務局より説明願います。

事務局 : 一資料 2、資料 4 に基づき応募状況、審査手順を説明—

山内 会長 : ただいま、事務局から応募状況と審査の手順について説明がありましたが、何か質問等ありませんか。

委員 一同 : 一意見・質問等なし—

山内 会長 : それでは、これより公開ヒアリング審査を行います。

企画書の提出順に行っていただきたいと思いますので、各団体の説明者の方、よろしくお願いします。

なお、各団体の説明及び質疑応答に係る時間は、それぞれおおむね10分程度と考えておりますので、よろしくお願いします。

それでは、最初に「ところ おいしいシアワセ見つけ！隊」から、事業の概要等について説明願います。

「トコ×たペプロジェクト」事業

【ところ おいしいシアワセ見つけ！隊】

— 資料 3 P1~P6 —

那須 代表 : ただいま佐野事務局長が昨年度の事業概要について説明しましたが、継続して今年度も手を挙げさせていただきたいということで

ところ おいしいシアワセ見つけ！隊 「トコ×たペプロジェクト」事業のご説明させていただきたいと思います。

昨年度、レシピを募集いたしました。その中でたくさんの具体的なおいしいお料理のレシピをいただきました。現在も「こんな料理もあるんだよ」ということで直接メンバーに応募していただいたりしてレシピ募集の事業が継続している状態です。平成25年度に関しましては、昨年集めましたレシピを具体的に書籍化していく作業に移らせていただきたいと思います。25年度に関しましては2つの柱を考えています。

まず、一つめの柱は具体的なデータ化したものを出版に向けて準備を進めること、二つめの柱はこの町の「食」に対して関心が高いということがわかってきました。それを是非深めていきたいということで、置戸町の管理栄養士であります佐々木+美さんをお迎えしまして、若いお母さん達にもいかに

「食」が大切か、子ども達に「食」をどんなふうに育てていったらいいかというように、佐々木十美さんの講演会を行ないたいと思っております。

柱の1本目ですが、昨年度実際に事業が動き出しましたのが、10月ぐらいでした。食材に関してどうしても旬の食材を使って自分達の作ったもの、自分達が生産した食材で調理をして写真に収めていきたいという思いから、春・夏の部分については、まだ実際にデータがとれていない状況です。それを継続して料理を作って、写真を撮ってデータを作る作業をしていきたいと思っております。先程もお話しましたが、お年寄りの方が持っているレシピ、昔からの料理の部分について、もう少し深く自ら歩いて聞き取りをする作業も継続していきたいと思っております。いっぺんに編集作業というのは大変難しいということを出版社の方からアドバイスをいただきましたので、少しずつできるところから文書作り、レイアウトなどを考えながらやっていきたいと思っております。

2本目の柱にあげた、佐々木十美さんの講演会につきましては、農家のお母さん達の研修会の中で、佐々木さんと直接お話をする機会をいただいたことがあります。その中で「私達は常呂の食べ物を拾い上げてレシピを作りたいと思っているんです。」というようなお話をしましたら、大変共感をいただいて、「それは、是非がんばってやったらいいよ。」「常呂のことを応援してあげるよ。」というようなお話をいただきまして、講演会のほうも平行して実施していきたいと思っております。

平成24年、平成25年と継続してパワー支援事業に手をあげさせていただいているわけですが、もし、また継続してご支援していただけたとしましたら、私達の思いのこもったレシピ本を完成することで、パワー支援事業をまさしく支援の種として使わせていただいて、今度私達はこの種の芽を出せるように、一人歩きしていけるように、レシピ本を次の展開のひとつのツールとして使わせていただきたいと思っております。今思っていることは、できた本を活用しての料理交流や子供達と一緒に料理を作る機会を作ったり、若いお母さん達に常呂の伝統的な料理と一緒に作る機会をもってもらったり、お年寄り同士料理をしながら交流してもらえそうな場をつくるような、そのような料理を通しての交流会を今後考えております。そしてさらに地元の食材の素晴らしさとか愛着を深めていってもらえるのではないかとということにも思っております。今回、こういう事業をやりまして私達はほとんど農家のお母さんが多いのですが、漁師のお母さん達との交流であるとか興味、関心の高いお母さん達がメンバーに加わっていることで常呂町民のお母さん達の横のつながりも、もっと深まっていくのではないのかなと考えております。また、書籍化をするということで他の町村の方とも何らかの交流もできいくのではないかと考えております。そのようにパワー支援事業を支援していただいて、その先はなんとか自分達で一人立ちをして私達なりの町おこしに積極的に関わっていききたいと思っておりますのでご支援をお願いします。

人は毎日食べることをやめないですよ、本当にお台所からのまちづくりがあってもいいのではないだろうかというふうに考えております。これから食べ物プロジェクトはどんなふうに動いていくかは未知数ですが、とりあえず今年は書籍化をしてレシピ本を作る土台の年にしていきたいなと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

意見・質問

- 田淵副会長 : 本の完成を平成26年2月あたりに考えているようなので、活用の話もされていましたが、例えば、有料にするのか、無料にするのか、無料だとするとどの範囲に広めるのか。
- 那須 代表 : レシピを応募していただいた方には、特典として配布するという約束をしております。それと学校、病院、役所、北見市内の図書館、農協、漁協、町内の子育てサークルには何冊かまとめて寄贈させていただきたいというふうに思っております。今のところ見積で最低ライン500冊それ以上少ないとコストが高くなってしまいますので500冊を目標に作りたくと思います。他の分に関しましては研修会などに持参して自分達で100冊は売りたいと思っております。また売れた利益に関しましては、次の展開に向けての資金に役立させていただきたいと思っております。
- 敦賀 委員 : 書籍で住民の人に知ってもらおうと言っていたのですが、イベントや行事で披露していただきたいと思っております。「おいしいな」と思う人が書籍を買って作ってみたいという人が生まれると思っております。カーリングの大会でも地元の料理を食べたいから常呂に来たいとか、そこに行きたいという人がたくさんいます。今年、カーリングホールのオープニングがありますので、おもてなしをお母さん達のレシピでやってはどうかなって思います。
- 山内 会長 : 他に何か質問ありませんか。
- 委員 一同 : 「なし」の声
- 山内 会長 : それでは、「ところ おいしいシアワセ見つけ！隊」の皆さん、ありがとうございました。

「オホーツクところ特産品村事業」

【ところ街おこし実行委員会】

— P7~P13 —

- 忠津実行委員長 : オホーツクところ特産品村事業を立ち上げるとして実行委員会を組織しました。

開催日時は平成25年7月27日から28日の2日間、27日は午前11

時から午後8時、28日は午前10時から午後8時で開催をしたいと考えています。事業目的は常呂の特産品や常呂で生産されるものを利用した食べ物などを提供するこだわりの「特産品」を開発し、常呂のPRと地域の活性化に寄与するという目的をもっています。事業内容につきましては、常呂自治区を中心とした10店舗もしくはそれ以上の店舗の特産品村を作り、今年はH1グランプリ(Hは帆立を意味)を開催し、帆立料理No.1を決めると共に、商品開発の基礎とします。開催場所や周知方法については、ところ常南ビーチ広場において海水浴場の海開きに合わせて開催し、伝書鳩の広告掲載・ポスター及びチラシ等で周知その他イベントを考え、より多く集客を考えております。期待される事業の効果として、こだわりの「特産品村」を開催することで町内外からの集客を図り、常呂の魅力を伝えるとともに地域の活性化及び商業意欲の向上を図りたいと考えています。

私達の思いですが、最近の常呂自治区の商店街は少子高齢化、人口減少により商店の売り上げは減少し廃業の商店が顕著に表面化されてきています。そのため商店街を歩く人もまばらになり、このままでは益々元気のない常呂自治区になってしまうと思います。常呂自治区には、しっかりとした第1次産業があり、そこには恵まれた特産品が豊富にあります。その特産品を利用した食べ物や商品などを町内外から募って出展してもらい、新たな開発など商業意欲の向上と常呂の魅力の発信をしたいと思っています。

私達は「オホーツクところ特産品村」を開催して大勢の人達に常呂自治区にお越しいただき常呂自治区に元気を与える特産品村をめざします。

皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。以上で説明は終わらせていただきますがよろしくお願い致します。

意見・質問

- 澤向 委員 : 海開きの日の天気が悪い場合の対応などは検討しているのですか。
- 忠津実行委員長 : 海開きの日は変わらないんです。例えば、豪雨だとか嵐のときは難しいとは思いますが日程を決めないとポスターや周知の方法ができないので、この日を選びました。
- 澤向 委員 : 夏は観光客がたくさん来るとは思いますが、回数としては土日1回限りですか。
- 山内 会長 : 当日、悪天候でできない場合、次の日になるのか。
- 忠津実行委員長 : 次の日か、もしくは次の週になるかもしれません。
- 安藤 委員 : 提供する食品は全部加工した食品ですか。
- 忠津実行委員長 : 例えば、農家の人野菜を持ってきて販売しても結構です。
- 安藤 委員 : 一般的な海産物を商店で販売しているようなものを販売するという事ですか。
- 忠津実行委員長 : それも構わないと思います。

- 山内 会長 : 手を加えたもの、加えていないものという縛りはないですね。
- 忠津実行委員長 : お祭りみたいに露天商を入れることは考えていません。
- 敦賀 委員 : 帆立料理は誰がどういうふうにするのですか。
- 忠津実行委員長 : 町内外から帆立を使った料理を募集します。サンプルを作って来ていただいて、審査員のかたに試食をしていただきましてグランプリを決めます。
- 敦賀 委員 : 何人かの審査員で決めるということですか。よくグランプリって、いろいろなお客さんに食べてもらって決めると思いますが。
- 忠津実行委員長 : そこまではできないかなと思います。
- 敦賀 委員 : 作った人の材料費はどうするのですか。
- 忠津実行委員長 : 材料費は作る人の費用です。
- 田淵副会長 : 予算の関係で団体負担金（店舗負担金）の部分でH1グランプリに出る人もこの中に含まれるのか。
- 忠津実行委員長 : これは別です。テントを使用し店舗を出す人が10,000円負担します。
- 安藤 委員 : 委託料のプロダクション依頼310,000円とありますが、企画会社に依頼するのですか。
- 忠津実行委員長 : 集客の手段として芸能人を依頼しようと思っています。
- 山内 会長 : 確認ですが、プロダクション依頼310,000円の金額の出し方というのは、どのように積算したのですか。
- 忠津実行委員長 : プロダクションより見積をいただいています。
- 澤向 委員 : 例えばH1グランプリに出した料理がおいしいと評判になったら、どっかのお店の定番商品に出すというつながりもできるのかなと思います。
- 忠津実行委員長 : そこまでは考えてはいないのですが。
- 大岸実行委員 : 特産品村というのは、H1グランプリで良い物ができたのなら、それはそれで広げようと思っています。今考えているのは、商品券を作って優秀な方に商品券をさしあげると力も入るしいい物もできると思います。常呂特産品村というのは、常呂のものを大々的に宣伝して特産品を作るのが一番の目標です。
- 山内 会長 : よろしいですか。
- 委員 一同 : ー「はい」の声ー
- 山内 会長 : それでは、「ところ街おこし実行委員会」の皆さん、ありがとうございました。
- 山内 会長 : 以上で、すべての説明が終了いたしましたので、さっそく審査に入りたいと思います。
審査の間、申請団体の皆さんはロビーでお待ちいただきたいと思います。
- ・・・申請団体退室・・・
- 山内 会長 : 委員の皆さんは、審査評価シートにより審査していただき、記入が終わった方は、事務局に提出してください。
集計がまとまるまでの間は、暫時休憩といたします。

・・・・・・・・休憩・集計・・・・・・・・
(集計作業終了後)
・・・・・・・・委員集合・・・・・・・・

山内 会長 : 集計作業が終了しましたので、結果を事務局より報告願います。
事務局 : それでは、審査の結果を発表いたします。
 ところ おいしいシアワセ見つけ！隊の「トコ×たべプロジェクト事業」
 は、平均点数 20.2 点で、補助率 9/10、補助金算定額は 748,000 円
 となりました。
 次に、ところ街おこし実行委員会の「オホーツクところ特産品村事業」は、
 平均点数 14.6 点で、補助率 7/10、補助金算定額は 600,000 円とな
 りました。

以上でございます。

山内 会長 : ただいま事務局から審査の集計結果について報告がありましたが、この報
告をまちづくり協議会の審査結果とすることで、よろしゅうございますか。
委員 一同 : 一意見・質問等なし
山内 会長 : それでは、ただいま発表のありました集計結果を、まちづくり協議会の審
査結果といたします。

 なお、最終的な補助額の決定につきましては、まちづくりパワー支援補助
金交付要綱の第 11 条第 2 項の規定により、市長の権限となっております
ので、市長に対して、まちづくり協議会の審査結果を尊重し、決定されるよ
う通知いたします。

 また、申請団体の皆様にはお願いですが、ただいま採択を決定した事業にお
いて、事業内容が大きく変更になるような場合には、補助金交付要綱第 16
条の規定により、まちづくり協議会で協議することとなっておりますので承
知おきいただきたいと思います。

 以上で平成 25 年度まちづくりパワー支援補助金の公開審査を終了いたし
ます。

そ の 他

山内 会長 : 以上で、本日の議題は全て終了しました。

次に、その他として委員の皆様から何かございますか。
なければ、事務局から何かありますか。

開催予定

事務局

： 次回の協議会の開催日程につきましては、今のところ未定となっておりますが、案件が整い次第、日程調整のうえ、あらためてご案内いたしますので、繰り合わせご出席くださいますよう、よろしくお願いいたします。

閉会

山内 会長

： それでは、以上をもちまして、平成 25 年度 第 1 回常呂まちづくり協議会を終了いたします。お疲れ様でした。